10・8 山崎博昭プロジェクト 2026年秋の集会

今こそ、あらゆる戦争を止めるために

市民監視をにらみ返す

ふたつの弾圧事件から、ふたりの当事者とともに問う

近藤ゆり子（大垣警察市民監視違憲訴訟 元原告）
北野由直（兵庫県庁弾圧事件 当事者）

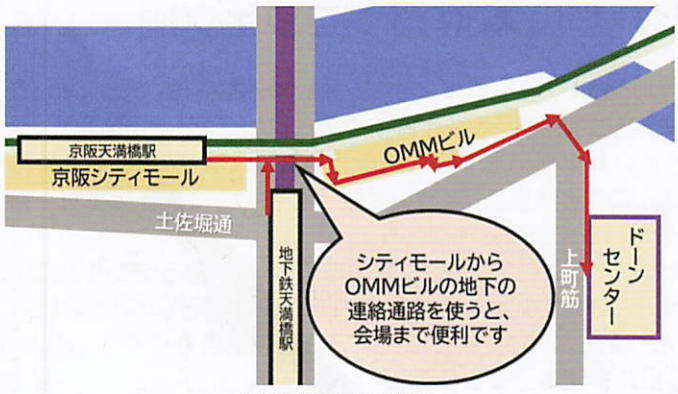
11月28日(土)

14:00 開演 **16:50** まで
（13:30 開場）

参加費 **1000**円
（学生無料）

主催者ホームページへは
こちらから ▸▸▸

https://yamazaki-project.com/



会場までの略図

会場 ドーンセンター 5階 特別会議室
大阪市中央区大手前 1-3-49
★ Osaka Metro・京阪電鉄 天満橋駅から東へ 500m

主催 10・8 山崎博昭プロジェクト
関西運営委員会
530-0047 大阪市北区西天満4−8−2
北ビル本館301号 北本法律事務所内
FAX 06−6365−0009
メール 10.8yamazaki.kansai@gmail.com

10・8 山﨑博昭プロジェクト 2026年秋の集会

今こそ、あらゆる戦争を止めるために

市民監視をにらみ返す

権力は市民を見張る
～大垣警察市民監視事件～
近藤ゆり子さん

2014年7月、岐阜県の大垣警察署警備課（公安）が中部電力株式会社の社員を呼びつけ、4人の大垣市民の個人情報を提供していたことが明るみに出ました。およそ10年の裁判闘争を経て、おととし2024年9月、名古屋高裁は、警察側を厳しく断罪する判決を下しました。

そもそも公安警察には、戦後に解体されたはずの特高警察が、米国の占領政策の変化にともなって復活を遂げたという一面があります。法的根拠もなしに市民を監視し放題の体制はいまなお解消されず、それどころか政府は市民監視を強化・拡大する法律を次々つくっています。このたび勝ち取られた判決を出発点に、市民監視への反撃を考えましょう。



新しい恐怖政治の一断面
～兵庫県庁弾圧事件の報告～
北野由直さん

2024年以降の兵庫県は、地方政治の混乱の最前線となってきました。その発端は、今なお県知事の任にある斎藤元彦氏が、内部告発を受けて議会から不信任を突きつけられ、失職に追いこまれながらも再選を遂げたことに求められます。斎藤氏は選挙中から、氏に近しい県議や支持者らをも巻き込み、時に訴訟を起こしてまで、自らに反対・抗議する者たちの訴えをかき消し、封じ込めようとしてきました。県警や地検もこれに呼応し、現在に至るまで何件もの逮捕や起訴を重ねてきたことも見逃せません。

私もまた昨年4月、斎藤氏との面談を求めて県庁を訪ね、庁内で拡声器を使って抗議の声をあげました。しかし県庁を去って1時間後、建造物等侵入で「現行犯逮捕」され、以後72日にわたる勾留を受けました。集会当日は、私のこの体験から現状に迫り、これから私たちに何ができるかを考える機会にしたいと思っています。



▸法廷画について――今年七月に開かれた控訴審二度目の公判でも、北野さんは判決の強行に抗議したが、法廷警備員に取り押さえられ、法廷から強制排除された



山﨑博昭と10・8山﨑博昭プロジェクトについて

1967年に大阪府立大手前高校を卒業、京都大学文学部に入学。同じ年の10月8日、全学連の第一次羽田闘争（佐藤栄作首相の南ベトナム訪問阻止闘争）に参加したが、空港にほど近い弁天橋の上での機動隊との激しい衝突のさなか、機動隊の警棒で撲殺された。この出来事は、当時の学生や若者たちに大きな衝撃をあたえ、「10・8（ジュッパチ）ショック」と呼ばれた。

山﨑プロジェクトは2014年の発足以来、山﨑博昭の追悼と「あらゆる戦争に反対する」ことを趣旨として、かれの死をめぐる事実の究明や、同時代の闘争の記録などの活動にとり組んできた。2017年には弁天橋近くの福泉寺にモニュメント「反戦の碑」を建立し、山﨑博昭の遺骨を分骨している。